

8. 各館事業実施報告

■ 中央図書館

1 連携事業

- (1) 4月 県内・外図書館、高等学校と、ヤングアダルト世代にむけた漱石生誕150年記念展示をに行った。
- (2) 4月 鎌倉国宝館と鎌倉にゆかりの慶派仏師とその作品についての講座を開催し、関連図書紹介や調べ方案内もあわせて行った。
- (3) 5月 市内柳田国男研究団体と、鎌倉にゆかりのある民俗昔話と神話との関連についての講座を開催し、関連図書紹介のほか、記録集を発行。
- (4) 6月 市内古書店等と本を介した地域連携による催し「ブックカーニバル in カマクラ」の中で、製本ワークショップ、珈琲野郎のファンタスティック☆カフェ、ウォークラリー、展示「鎌倉文士とゆかりの映画」を開催。
- (5) 7月 上海虹文庫内中国影絵サークル上海花影社の協力により、影絵上演とワークショップを開催。
- (6) 9月 「ジオ神奈川」協力で特別展「関東大震災 空からの記録を読む」の開催、展示解説を実施。
- (7) 10月、ファンタスティック☆ライブラリー（図書館まつり）の実施。他に地域館2館の市民協働事業の事務局としてとりまとめを行った。
- (8) 3月 江ノ島電鉄、江ノ電ファンクラブの協力で、ジオラマ展示「江ノ電が来た！」を開催。

2 図書館利用に障害のある方へのサービス

- (1) 5・11月 手話付きおはなし会を実施。
- (2) LLブック、大活字本、DAYSY図書の充実（LLブック12タイトル、大活字本413点、DAISY図書200点所蔵）
- (3) リーディングトラッカー（読書補助機器）を備えた。
- (4) 対面朗読の試行を行った。

3 資料保存

12月 資料保存のため、一部郷土資料の脱酸性化処置及び補修等を実施。

4 施設環境整備

- (1) 児童トイレを改修、屋上庇への防護ネットを設置。
- (2) ヤングアダルトコーナーに、新たに読書席を設置。

5 近代史資料室事業

3月 近代史資料集第15集『鎌倉郡岩瀬村御用留』を刊行。

6 利用動向分析のための整備

来館者カウンター設置により利用者動向に合わせたサービス体制を検討。

7 デジタルアーカイブ事業

デジタルアーカイブに写真資料39点、錦絵44点を新たに公開。

8 レファレンス業務

レファレンス記録を国立国会図書館レファレンス協働データベースに追加。
(平成29年度追加51件。計493件、内一般公開128件)

9 特集コーナー

「漱石生誕150年、児童福祉週間展示「食育」「バリアフリー」、「鎌倉時代だけじゃない鎌倉」、「地形と地図を楽しむ」、自殺予防週間展示、「私たち温泉部です!」、「本の福袋」、「読み将! (将棋)」、自殺予防強化月間展示「若者の心と命を守る」等、月1回以上のサイクルで図書の特集コーナーを設置。

10 パスファインダー

4月「慶派仏師と鎌倉」催事関連図書リスト作成配布、「神話と昔話-柳田国男を介して」、5月「鎌倉文士の著作の主な映像化作品」、12月「巨匠が愛した女優たち」、3月「若者の命と心を守る」

■ 腰越図書館

1 市民協働事業

鎌倉市が公募した市民協働事業で、市民団体「図書館とともだち・鎌倉」が図書館と「身近な図書館プロジェクト」事業を行った。これは地域の身近かな活動と図書館をつないで、図書館利用の少ない地域にも図書館サービスを届けようとするもの。腰越では「広町市民の会」との連携を図った。田んぼの代掻き、ホテルの生息域の観察、芋掘り、科学絵本作家講演会を行い、その都度、図書館での特集展示、リスト作成配布、野外図書館等を行った。また、広町緑地の歴史や市民協働事業の様子の写真パネルを作成し、貸出資料とした。期間プレ期間を含め平成29年3月～平成30年3月まで年間通して、広町緑地の現在の動植物や農作業等を伝える写真展示を図書館展示コーナーと1階エントランスホールで行い、図書館との連携事業関連の本の展示を行った。

2 行政センター内で協力して行った腰越写真展示「こしげえー写真展」

平成30年3月中旬から4月中旬まで腰越行政センターと協力して1階エントランスホールと3階図書館で同時に腰越地域の、今昔を伝える写真展を行った。図書館では腰越の地域の歴史を知る本の特集展示も行い貸出に供した。高齢者から学齢前の子どもが足をとめて見ており、写真を見ながら利用者同士が語り合う姿も見られた。また、1階から写真を見るために3階の図書館へ足を運ぶ人が多くいた。

3 鎌倉ブックカーニバル連携

毎年中央図書館で参加している鎌倉ブックカーニバルの時期に合わせてポスター、地図を貼って、イベント関連の図書の特集を行った。

4 理研との連携「科学道100冊」及び「科学道100冊ジュニア」展示。

理化学研究所と編集工学研究所による「科学道100冊」に応募して、展示を行った。これは科学道100冊委員会が全国の書店、公共図書館、学校図書館によびかけて同時多発的展示を目指したもので、書籍を通じて科学者の生き方・考え方や科学のおもしろさ・素晴らしさを届ける事業。応募すると、大きな展示看板、小テーマごとの見出し、数枚のしおり、フルカラーの解説冊子50冊が提供された。これらを使って本の展示をし、冊子を配布した。感想用紙と冊子を引き換えにしたので、展示についての感想を得られ、新鮮な企画に好評を得た。展示条件で一定の冊数を展示することとなっていたので、所蔵を調べたところ、この100冊で推薦されている本の多くを所蔵していることがわかったが、不足している分野や最新の科学情報を得られると考えられる本は購入した。一般向き「科学道100冊」に続き、秋には「科学道100冊ジュニア」の募集もあったのでこちらも応募し参加・展示した。

5 高校生を講師としたサイエンスカフェ

「鎌倉高校に聞く！第2弾 鎌倉の砂鉄で刀ができた」開催

平成30年3月17日、鎌倉高校の科学研究会が挙げた研究成果について高校生自身に発表してもらい、その後参加者の一般市民や小中学生と5グループに分かれて、質問、感想の出し合い、情報交換を行った。高校生は複数の大学などとも連携して研究をすすめており、また、参加者に対し、丁寧でわかりやすい説明を行い、たいへん喜ばれた。昨年も第1弾を開催し、鎌倉の砂鉄で刀は作れるだろうか？という投げかけで終わったので、更なる研究の成果を報告する、同テーマの続編としての意義も高かった。

6 今日は何の日 特集と発信

平成27年6月より続けている今日は何の日特集を29年度の全開館日に展示し、ツイッターで紹介を行った。目的としては、「いつ行っても目新しいテーマの展示があること」「図書館の蔵書としては文学、歴史が目立つ分野なので、それ以外の分野もまんべんなく紹介し、提供していることを知らせる」「連想してもらって利用者自身のブラウジングのヒントとしてもらう」としている。昨日は何の日コーナーも定着し、そこから本を探す人も多い。同時に職員自身がこの図書館で何を所蔵しているか、何が足りないかを確認したり、他の図書館の所蔵資料を知る、レファレンスに役立てるなどの効果もあった。

■ 深沢図書館

1 子ども読書活動支援センター機能

- (1) 第3次鎌倉市子ども読書活動推進計画の策定を行った。
- (2) 子ども読書活動支援センター事務局として、「鎌倉市子ども読書活動推進に関する連絡会議」を市民委員を含め年度内に計5回行い、パブリックコメントを募集し、「第3次鎌倉市子ども読書活動推進計画」を策定。
- (3) 学校貸出の拠点として、授業支援を行った（詳細は、p44～）。

2 おはなしボランティア活動支援

- (1) 地域で読み聞かせなどの子どもの読書支援に関わる方との情報交換の場として「第9回本の海サポーターズ交流会」を平成29年6月15日（木）に開催。
- (2) 図書館員による年齢別向けにおすすめの本のブックトークと、おはなしボランティアとして活動している方のステップアップ講座を平成30年2月9日（木）に開催（年齢別のおはなし会の実演と、科学読物についての講座）。
- (3) おはなしボランティア養成講座の会場として、平成29年11月10日（金）、11月17日（金）、11月24日（金）12月8日（金）の全4回講座開催。

3 「夢ラボ・図書館ネットワーク～図書館利用促進プロジェクト横浜・鎌倉版～」へ取材協力

夢ラボ・図書館ネットワークの取材を受け、深沢図書館と図書館周辺の地域の情報を提供した。深沢図書館は、子どもとのつながりが多い図書館なので、学校支援の中心である地下書庫のほか、地域で活躍するおはなしボランティアの方が活動される場所などを中心に案内した。

■ 大船図書館

地域状況に沿った利用しやすい開館日、開館時間の検討

地域別時間帯別の入館者数の調査（入館者カウンター設置）と検討を行った。図書館協議会答申、利用状況を考慮し、平成29年6月～8月最終金曜日の開館を20時までの試行をし、結果を受け平成30年度は従来どおりの開館日、開館時間とすることとした。



■ 玉縄図書館

1 職員体制と開館時間変更の試行実施

平成29年6月1日～8月31日の間、玉縄図書館では嘱託員中心の図書館運営と夜間開館中止の試行を行った。

(1) 嘱託員中心の図書館運営

・専門業務嘱託員という新たな職を設け、職員3名のうち2名を専門業務嘱託員2名に置き換えて館の運営が可能か検証を行った。

(2) 夜間開館の中止

・週2回の19時までの夜間開館を中止し、17時で閉館した。
・夜間開館を中止した時間について、学習センターの集会室を読書室として開放し、読書室としての利用動向を探った。

(3) 試行の結果、見えてきたこと

・専門業務嘱託員は、予約処理や行事等、固定化された日常業務を主体的に担うことができるので、職員の業務軽減につながった。ただし、試行の体制では中央図書館からの応援が前提となり、効率が悪いことがわかった。
・19時までの夜間開館継続を望む声は、多くあった。
・夜間開館の代わりとして、学習センターを読書室として利用する方はわずかだった。

(4) 今後の動き

・平成30年度には、中央図書館・腰越図書館で開館時間の試行を実施。その結果やアンケートと併せて、全館の方向性を決定する予定。

2 市民協働事業

鎌倉市が公募した市民協働事業に、市民団体「図書館とともだち・鎌倉」の提案が採用され、玉縄図書館と腰越図書館とで「身近な図書館プロジェクト」事業を行った。これは、地域の身近な活動と図書館をつないで、図書館利用の少ない地域にも図書館サービスを届けようというもの。

玉縄図書館では、「玉縄歴史の会」と「憩い宿」の協力を得て、地域の歴史に関する展示、ギャラリートーク、連続講座、歴史散策などの行事や、出張おはなし会、出前図書館等を実施した。

事業の成果物として作成した写真・地図等のパネルは、地域の歴史を伝える資料として、館内に展示するほか学校や地域団体に貸出す等、活用を図っていく。

3 「夢ラボ・図書館ネットワーク～図書館利用促進プロジェクト横浜・鎌倉版～」へ取材協力

夢ラボ・図書館ネットワークの取材を受け、玉縄図書館と周辺地域の情報を提供した。取材時に、市民協働事業の準備作業が行われており、その様子も掲載されている。

<https://ameblo.jp/library-use2/entry-12276273311.html>

4 フラワーセンター大船植物園からの資料受贈

玉縄地域で長年親しまれてきたフラワーセンターが、改修工事のために一時休館するという報道を見て、資料の寄贈を依頼したところ、開館当時のパンフレットや業務報告など貴重な資料をいただくことができた。

玉縄図書館の資料として、保存・公開していく。

9. 市民協働事業

(市民活動団体と市による相互提案協働事業)

平成29年5月10日より、市民活動団体「図書館とともだち・鎌倉」の提案による「身近な図書館事業プロジェクト」事業を実施しました（～平成30年3月）。

いつでも、誰でも、等しく利用することができる図書館となるよう、地域図書館と地域で活動する団体が連携をとりながら、地域図書館の振興活動を実施しました。

事業終了後に図書館の利用状況や図書館への要望を把握するためのアンケート調査を実施し、ニーズや可能性について検討しました。

29年度は玉縄地域、腰越地域をモデル地域として選択しました。それぞれの地域の歴史や自然環境づくりに関する市民団体からの協力を得たことで、図書館利用者や催しへの参加者が地元の魅力に触れ、地域図書館の資料を活用する機会も増えました。

成果として図書館の利用促進ばかりでなく、図書館を介した地域交流ができ、図書館と地域市民団体との協力関係が進展しました。次年度以降の企画も検討されています。成果を展示パネルにして郷土資料として活用できるようにしました。



↑
【腰越】5/20「田んぼ体験のち青空教室」

↑【玉縄】11/29「玉縄の歴史を巡る会」



【玉縄】成果の展示パネル(一部)→

【腰越】11/3「イモ掘り」

